

フォーミュラ・ニッポン第4戦 RACE Report 2009/06/28 富士スピードウェイ
決勝レース

●雨のレースをロイックが制し初めてのポール to ウィン

午後2時30分、セーフティカー(SC)スタートで第4戦決勝レースが始まった。3周のSCランの後リスタートが切られる。トップをキープしたロイックは、序盤から2位以下との差を広げていく。毎周1秒近く差をつけていったロイックは、30周目で25秒差をつけて独走状態。ところが33周目、下位を走るマシンがスピンしコース上にストップしたことでSCが導入されることに。チームはすぐにドライバーにピットインの指示を与える。ロイックはタイヤ交換なしの給油のみで速いピットストップを終えるとコースに復帰。ロイックは再びトップでリスタートを切った。リスタート後もロイックは速いペースでレースを進めていく。後続が1分42~43秒台で周回を重ねる中、41秒台のタイムを連発して再び差を広げていった。45周目には唯一の1分40秒台をマークしファステストラップを記録。安定したペースで55周を走りきり、第2戦鈴鹿に続いてシーズン2勝目、自身初のポール to ウィンを達成した。

6番手からスタートの小暮は、中団で視界の悪い中を走ることに。ベストラップは全体の4番手とマシンの好調さは見せるものの、視界の悪さから、なかなか前のマシンをパスすることができなかった。ロイックと同じタイミングで給油のみのピットインを済ませると、7位で戦列に復帰。その後も安定しペースで周回を重ね、7位でチェッカーを受けた。

中嶋悟総監督

「今回は大変なコンディションのレースとなりましたが、ロイックが素晴らしい走りで優勝し、ポイント的にも大きな1戦になりました。実は、当初は無給油で行く作戦でした。でも、15周ほど走ったところで、予想した以上に燃料を消費していることが分かり、急遽、燃料を補給する作戦に切り替えました。これで、チームとしては3連勝ですが、次回こそ、2人揃って好成績が残せるよう、頑張ります」

ロイック・デュバル 優勝/1:43'02.140/55周

「決勝レースはSCに先導されてのスタートだったけど、ウェットの状態がコースの各所で違って、スタート直後は大変だったね。でも、チームが良いマシンを作ってくれて、最初から大きなアドバンテージを築くことが出来た。2度目のSCで、それまで築いたアドバンテージは無くなってしまったけど、集中力を切らさないために、最後までプッシュ、2

PIAA

EPSON

ZOJIRUSHI

ZURICH

HONDA

S&F

D

BRIDGESTONE

NGK

BBS

GR2

PERFORMANCE

Amal

勝目を上げることが出来ました」

小暮卓史 7位/1:43'55.191/55周

「予選から決勝まで、クルマの戦闘力はすごく高いものがありました。やはり予選のスピンドで6位という位置からスタートしたことが、今回前に出られなかった一番の原因だと思います。クルマが好調なだけにとても残念です。次戦の鈴鹿には気持ちを入れ替えて、勝ちを狙いにいきたいと思っています」